

カナイワ「地中熱」に力 国推進の省エネ空調・給湯

井戸掘削などを手掛ける土木業のカナイワ（金沢市）は、地中熱エネルギーを利用した空調・給湯設備事業に乗り出している。二酸化炭素（CO₂）の排出が少ない省エネ技術で、冷暖房費を削減できる利点も強調し、北陸企業に提案してい

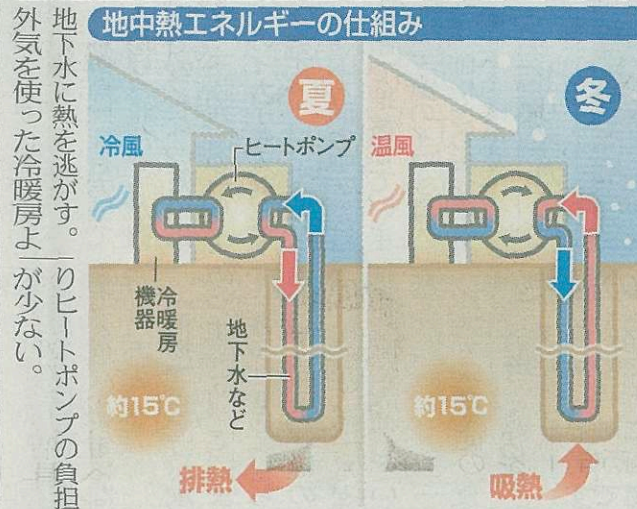
く。

第一号の施工実績として、昨年二月に金沢市内の病院に設置した。重油を使うボイラー設備と比べ、十一月で建物全体のCO₂排出量が37%減。冷暖房費と給湯費も、冬場は八割減、夏場は三割減となり大幅に抑制でき

たという。

同社の設備は、地中熱によって地下水が年間通じて約一五度に保たれていることを利用。地下百メートルまで配管を通し、地下水を循環させる。エアコンの心臓部に当たるヒートポンプが、冬は地下水から熱を受け取り、夏は

地中熱エネルギーの仕組み



同社は公共事業の減少もあり、十年前から環境関連事業への進出を検討してきた。二年前にヒートポンプ設備メーカーのゼネラルヒートポンプ工業（名古屋）と提携。担当部署を立ち上げて、営業を図っている。普輪崎賢彦社長は「地下を扱う技術には自信がある。医療機関や温浴施設に売り込みたい」と話している。

地中熱を利用した空調・給湯は、国が省エネ技術として推進。北海道や東北地方では普及しているが、北陸では導入が進んでいないという。（大島康介）